さくらタイムス令和5年10月号

この夏はドラマ「VIVANT」に熱中していました。ストーリー展開の読めない見事な脚本に感動し、特に初回で「70年代の映画スターウォーズ」、2回以降からは「90年代のハリウッドスパイ・アクション系映画数本」のオマージュ的な設定があり、昔を懐かしめたことと、何人もの主演級役者さん方の熱演に引き込まれたことで、最後までドキドキワクワク、時には涙しながら見ていました。オマージュとは、「尊敬する作家や作品に影響を受け、似た作品を創作すること」で、名作へのリスペクトが強調されることから単なる二番煎じや焼き直しとは全く異なります。VIVANTのすごさは、大多数にとって新規の「別班（べっぱん）＝自衛隊の秘密情報部隊」を主軸としながら、根底には「愛する人々とつながり・守る」という永遠不滅のテーマがあり、おそらく相当数の名作から影響を受け、キラキラ光る沢山のオマージュを大胆に組み込み繊細かつ丹念に紡いだ結果、デコボコやつぎはぎ感を全く感じさせない一枚の綾錦のような素晴らしいオリジナル作品になっていることだと思います。考えてみると、この「紡ぐ」という作業は人生において常に行われており、経験からの「感動」が後にオマージュとなって蘇り、それらを積み重ね、心の手作業で紡ぎながら一つの作品のように一生が完成してゆきます。これはつまり、子ども達が毎日経験すること＝さくらの保育によって後の人生の色彩が違ってくるということであり、その責任の重さを改めて感じた次第です。これからさらに五感に良い影響をもたらせるような保育を職員とともに追求してゆきます。より素敵な沢山のオマージュからより幸せな人生が紡がれるよう心より願っています。

園長　山内　香幸